



西濃圏域合併協議会 「新市まちづくり計画」(案) をきる

西濃圏域合併協議会による住民説明会がはじまりました。12月20日、総合福祉会館にて1回目の説明会が行われ、協定項目の協議事項や「子育て日本一の中核都市」をスローガンにした「新市まちづくり計画」(案)の説明がありました。会場でも何人かの方が質問していましたが、この計画案、果たして本当にバラ色の町づくりになるか、いくつかの疑問を上げてみました。

疑問その2

小川市長の説明では「明治や昭和の合併とはちがひ、今は車社会である。自治体の規模も30分で移動ができる大きさを想定」ということですが、これは運転できる人を前提とした論理です。これからは4分の1はお年寄りという超高齢化社会です。きめ細かな地域福祉の充実が必要で、合併による広域化とどう統一できるのでしょうか。

疑問その3

「子育て」だけが良くて、老人福祉はサービス低下するのではないかと。大垣市の「垣老」は大丈夫？

疑問その4

「合併の効果」として「財政運営の効率化」を謳い、人件費の削減期待額の中には職員数約600人の削減も含まれています。これは首長や議員など特別職の人員削減だけでなく、窓口業務や保育士、保健師など現業部門の職員も含まれるのではないのでしょうか。

疑問その1

「子育て日本一」の具体的な内容は？
「30人学級の実現」「乳幼児医療費の助成制度を笠松町並に」「多治見市のように、校下に一つ児童館の設置を」「他町のように学校給食は自校方式で」といったお母さんたちの切実な願いが実現できますか。



疑問その5

中核都市として「保健所を整備し、健康管理・予防体制の構築、保健センターの機能強化」をあげていますが、成人病健診率は18%で10市町では最下位、他町並に引き上げることが出来ますか。

疑問その6

新市の「財政計画」は10年間のシミュレーションしか行っていないが、問題になるのは合併特例法による普通交付税の算定替特例が切れ、地方交付税が減額される15年目以降の財政計画が問題になります。この時期はまだ特例債等で借りた地方債が莫大で、今以上に借金地獄にあえぐのではと心配されます。

開催日	時間	会場
1月 9日(金)	18:30~20:30	中川ふれあいセンターホール
1月10日(土)	18:30~20:30	情報工房インクホール
1月19日(月)	18:30~20:30	勤労者総合福祉センターふれあいホール
1月24日(土)	14:00~16:00	赤坂総合センターホール
1月30日(金)	18:30~20:30	南部公民館多目的ホール